

天然記念物ヤマネの佐賀県内における分布状況

松田 浩輝¹⁾・吉岡 裕哉¹⁾・木下 智章¹⁾
 明石 夏澄¹⁾・副島 和則²⁾・徳田 誠¹⁾

Distribution of the Japanese dormouse *Glirulus japonicus* in Saga Prefecture,
 northwestern Kyushu, Japan

1) 〒 840-8502 佐賀県佐賀市本庄町 1 佐賀大学農学部システム生態学研究室

2) 〒 840-2221 佐賀県佐賀市東与賀町大字下古賀 716-2

1. はじめに

ヤマネ *Glirulus japonicus* (齧歯目ヤマネ科) は佐賀県に分布する哺乳類で唯一の天然記念物であり、県のレッドデータで絶滅危惧 I 類に指定されている。

県内においては、多良岳の標高 600 m 付近で 1999 年 11 月に初めてヤマネの生息が確認され(鶴田ら 2001), その後, 2014~2015 年にかけて多良岳の標高 500 m 付近, 経ヶ岳の標高 350 m 付近と 500 m 付近(徳田ら 2015), 国見岳(嬉野市)の標高 500 m 付近(吉岡ら 2016)と, いずれも多良山系において生息が確認されている。一方, 2014~2015 年にかけて多良山系以外で調査された九千部山, 八幡岳, 唐泉山ではいずれもヤマネの生息は確認されなかった(徳田ら 2015, 吉岡ら 2016)。

長崎県におけるこれまでの調査でもヤマネの分布は多良山系に限られていることや(松尾 2010, 安田・松尾 2015), 脊振山地の福岡県側における調査でもヤマネの生息は確認されていないことから(福岡県の希少野生動物植物 http://www.fihes.pref.fukuoka.jp/kankyo/rdb/explanations/mammalian_summary [2017 年 8 月 14 日参照]; および徳田ら 2015 の記述も参照), 九州北西部におけるヤマネの生息域は多良山系のみ限定されている可能性があり, 安田・坂田(2011)が指摘しているように九州の他の地

域個体群から隔離されているため, ヤマネの遺伝的多様性保全の観点から重要な個体群である。

そこで筆者らは, 佐賀県内におけるヤマネのより詳細な分布状況を把握するため, 2015~2017 年にかけて, 県西部の黒髪山と国見山, および, 北部の金山において調査を実施した。また, これまでに中腹でヤマネの生息が確認されている多良岳および経ヶ岳においては, 頂上付近の標高約 1,000 m の地点において調査を実施した。

2. 調査方法

ヤマネの生息確認は, これまでの調査(徳田ら 2015, 吉岡ら 2016)と同様に, 巣箱と自動撮影カメラを組み合わせた巣箱自動撮影法により実施した。カメラと巣箱は樹幹の高さ 1.5~2.0 m の位置に設置した。使用した巣箱の大きさは高さ約 32 cm, 幅約 14 cm, 奥行き約 18 cm であり, 両側面, 底面, および裏面に 1 カ所ずつ入口を設けた。過去の調査事例(徳田ら 2015, 吉岡ら 2016)から, ヤマネが生息している地点では, 概ね調査努力量 100 カメラ日以内にヤマネが撮影されている(「カメラ日」の説明は徳田ら 2015 を参照)。また, 九州北西部における過去の調査から, 冬期にはヤマネの撮影頻度が低下することが知られている(安田・

松尾 2015)。そこで、今回の調査では、ヤマネ生息の有無を判断するための調査努力量として、4月1日～11月30日の期間中に概ね500カメラ日を目安として調査を実施し、ヤマネが撮影されなかった場合にはその地点に生息していないものと判断した。

黒髪山では、西側山麓（西松浦郡有田町広瀬山；標高約100m；調査地A）において2015年10月2日～2016年1月21日まで4～6台の自動撮影カメラ（Ltl Acorn 6210, Shenzhen Ltl-Acorn Electronics または Fieldnote DUO, 麻里府商事）と巣箱を設置し、東側山腹（武雄市山内町大字宮野；標高約450m；調査地B）では2016年10月19日～12月8日まで6台の自動撮影カメラと巣箱を設置し調査を実施した（いずれの調査地でも、ヤマネ調査のカメラ日には11月30日までの撮影日数のみを含めた）。

金山では南東側山腹から小爪峠を経て東側尾根筋に至る登山道沿い（佐賀市三瀬村藤原および三瀬；標高670～860m；調査地C）において2016年7月14日～11月30日まで4台の自動撮影カメラと巣箱を設置し、国見山では南側山腹の国見湖畔公園から栗ノ木峠に至る登山道沿い（西松浦郡有田町山本、上山谷および岳；標高約500～640m；調査地D）において2017年4月26日～7月21日まで、6台の自動撮影カメラと巣箱を設置し調査を実施した。

多良岳では山頂付近（藤津郡太良町多良；標高約1,000m；調査地E）で2016年4月15日～2017年4月21日まで、そして経ヶ岳でも山頂付近（藤津郡太良町多良；標高約1,000m；調査地F）で2016年4月11日～2017年4月20日まで、それぞれ3台の自動撮影カメラと巣箱を設置し調査を実施した。なお、多良岳と経ヶ岳の山頂付近では、いずれも2016年中にヤマネが確認されたが、標高ごとの活動の季節性を明らかにする目的で翌年4月まで調査を継続した。これらの結果に関しては、別途報告予定である。

調査地の植生は以下の通りである。調査地

A：照葉樹林（約95年生）、調査地B：照葉樹二次林（若齢林）、調査地C：針葉樹人工林と照葉樹林（約60年生）および落葉広葉樹林（約100年生）、調査地D：針葉樹人工林と照葉樹林がパッチ状に存在（50～100年生）、調査地E：落葉広葉樹林（壮齢林）、調査地F：落葉広葉樹とモミの混交林（約120年生）。

3. 結果および考察

黒髪山においては、調査地Aで282カメラ日、調査地Bで228カメラ日の合計510カメラ日の調査を実施したが、ヤマネは撮影されなかった。また、金山（調査地C）で523カメラ日、国見山（調査地D）で516カメラ日の調査を実施したが、やはりヤマネは撮影されなかった。したがって、これらの地点にヤマネが生息している可能性は低いと考えられる。今回の調査で撮影された哺乳類は、黒髪山においては、アカネズミ類 *Apodemus* spp.（齧歯目ネズミ科）、アライグマ *Procyon lotor*（食肉目アライ

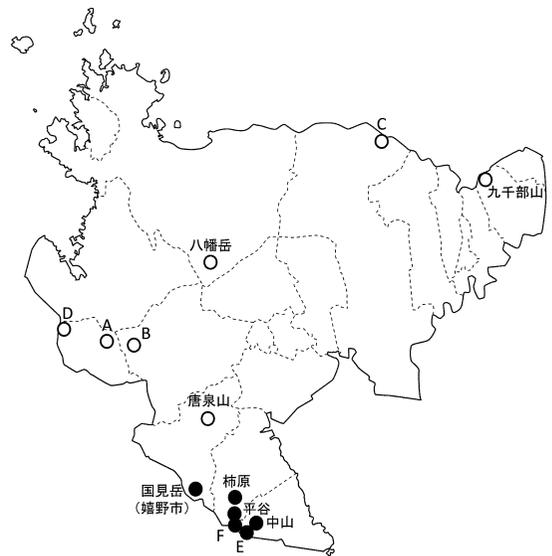


図1. 佐賀県内におけるヤマネ調査地の位置（A-B：黒髪山，C：金山，D：国見山，E：多良岳山頂付近，F：経ヶ岳山頂付近）。●はヤマネが撮影された地点，○はヤマネが撮影されなかった地点。徳田ら（2015）および吉岡ら（2016）による調査地点も参考までに図示した。

グマ科), テン *Martes melampus* (食肉目イタチ科), イノシシ *Sus scrofa* (鯨偶蹄目イノシシ科), タヌキ *Nyctereutes procyonoides* (食肉目イヌ科), ニホンノウサギ *Lepus brachyurus* (ウサギ目ウサギ科), 金山においてはアカネズミ類, イノシシ, 国見山においてはアカネズミ類 (図2), アライグマ (図3), イノシシであった.

一方, 多良岳 (調査地 E) と経ヶ岳 (調査地 F) の標高 1,000 m 地点においては, いずれもヤマネが確認された (図4, 5). 初確認までの調査努力量は, 調査地 E が 126 カメラ日, 調査地 F が 261 カメラ日であった. したがって, 多良岳と経ヶ岳においては, これまでに確認されていた中腹のみならず, 山頂付近にもヤマネが生息していることが明らかになった. 詳細は別途報告予定であるが, これまでにヤマネが確認されている標高 500 m 付近や 350 m 付近に比べ, 1,000 m 付近での撮影頻度は少ない傾向が

あり, 初確認までの調査努力量がいずれも 100 カメラ日を上回った. 山頂付近では, 中腹に比べヤマネの生息密度, あるいは活動性が低い可能性がある. ヤマネ以外に撮影された哺乳類は, 多良岳 1,000 m 付近においてはアカネズミ類, アライグマ, テン, イノシシ, ニホンノウサギであり, 経ヶ岳 1,000 m 付近においてはアカネズミ類, アライグマ, テンであった.

その他の哺乳類のうち, アライグマは特定外来生物に指定されており, 佐賀県において確認市町村や捕獲頭数が増加している (佐賀県くらし環境本部 有明海再生・自然環境課 2010). また, 筆者らの 2014~2015 年にかけての調査により佐賀県東部の九千部山でも撮影されている (徳田ら 2015). 今回の調査において, 多良岳や経ヶ岳の山頂付近までアライグマが生息していることが判明した. アライグマの生息域拡大や密度増加は, 農作物への被害のみならず, ヤマ



図2. 自動撮影カメラで撮影されたアカネズミ類 (国見山: 2017年5月24日)



図3. 自動撮影カメラで撮影されたアライグマ (国見山: 2017年6月24日)



図4. 自動撮影カメラで撮影されたヤマネ (多良岳: 2016年5月27日)



図5. 自動撮影カメラで撮影されたヤマネ (経ヶ岳: 2016年7月7日)

ネやムササビ(徳田ら 印刷中)を含む在来生態系への影響の観点からも今後注視すべき課題である。

4. おわりに

これまでの調査により脊振山系や国見山系および孤立峰を含む県内の主要な山地においてヤマネの分布調査を実施した(図1)。その結果、多良山系では、これまでに調査したいずれの地点(多良岳500mおよび1,000m付近、経ヶ岳350m, 500mおよび1,000m付近、嬉野市国見岳500m付近3地点)においてもヤマネの生息が確認されたものの、過去の調査(徳田ら2015;吉岡ら2016)を含め、多良山系以外の地域ではヤマネは確認されなかった。したがって、県内におけるヤマネの分布が多良山系に限定されている可能性が一層高まった。

上述のように、多良山系のヤマネは保全に特に配慮する必要がある孤立個体群であるため(安田・坂田2011)、今後も調査を継続して本種の生態を明らかにし、他地域との比較や、保全上の留意点を検討する必要がある。

謝辞

本研究の実施に際し、佐賀森林管理署から国有林における調査許可を受けた。本調査の一部は、佐賀大学の地(知)の拠点整備事業コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト平成26~29年度地域志向教育研究経費(研究代表者:徳田誠)および第12回九州ろうきんNPO助成(助成対象:佐賀んヤマネば守り隊)により実施された。調査に協力して下さった安田雅俊博士・山崎眞氏・白濱祥平氏・喜多章仁氏・藤田将平氏・服部南氏・松浦

美里氏に感謝申し上げます。

引用文献

- 佐賀県くらし環境本部 有明海再生・自然環境課. 2010. アライグマ防除のための手引き. 90pp. 佐賀県くらし環境本部 有明海再生・自然環境課, 佐賀市.
- 鶴田靖雄・副島和則・池田憲一. 2001. 佐賀県で確認されたヤマネ. 佐賀自然史研究(7): 47-48.
- 徳田誠・中嶋ひかる・木下智章・副島和則・安達修平・白濱祥平・安田雅俊. 2015. 佐賀県内における15年ぶりのヤマネの生息確認. 佐賀自然史研究(20): 7-10.
- 徳田誠・吉岡裕哉・安田雅俊・明石夏澄・木下智章・副島和則・松田浩輝・川道武男. 佐賀県におけるムササビ *Petaurista leucogenys* の生息確認. 哺乳類科学印刷中.
- 松尾公則. 2010. 長崎県の哺乳類. 173pp. 長崎新聞社, 長崎.
- 安田雅俊・坂田拓司. 2011. 絶滅のおそれのある九州のヤマネ -過去の生息記録からみた分布と生態および保全上の課題-. 哺乳類科学 51: 287-296.
- 安田雅俊・松尾公則. 2015. 巣箱自動撮影法であきらかになった九州北部の照葉樹林におけるヤマネ *Glirulus japonicus* の活動周期. 哺乳類科学 55: 35-41.
- 吉岡裕哉・明石夏澄・木下智章・副島和則・安田雅俊・徳田誠. 2016. 国見岳(佐賀県嬉野市)におけるヤマネの初確認. 佐賀自然史研究(21): 1-5.